

○ 取組の背景

- 1 中山間地域では高齢化と交流人口の減少により経済の停滞
- 2 鳥獣被害対策では、防護柵の設置等の対策が進められているが、被害の発生がみられる。

○ 課題・目標

表1 成果目標

課題	目標指標	現状(2017)	目標(2021)
1 大井川流域の地域資源を活用した交流促進	体験プログラム数	15	33
	農家民宿・宿泊者数(人)	807	1,760
	川根本町体験交流者数(人)	—	900
2 総合的な鳥獣害対策	被害対策モデル集落数	0	3
	鳥獣による農作物被害額(百万)	55	36
	被害対策実施隊の設置数	0	3

普及指導員の活動

○ 推進方向1 「大井川流域の地域資源を活かした交流促進」

■ GT関連施設の活動支援

- (1) 指導対象：GT協会志太榛原支部会員 24施設
- (2) 活動内容

- ・新たな体験モデルコースの造成支援
- ・Webサイトの改良、情報マップの作成支援



図1 モデルコース造成支援

■ 農家民宿等の農泊の推進

- (1) 指導対象：大井川農泊推進協議会、農林漁家民宿等農泊施設
- (2) 活動内容

- ・感染症対策マニュアルの作成支援
- ・モニターツアーの実施(1泊2日2コース)
- ・農泊受入モデル地区の設置、農家民宿等開設の勉強会の開催(2回)

■ 地域景観を活かした交流促進

- (1) 指導対象：縁結びくのわき地域協議会
- (2) 活動内容

- ・体験農園開設のための講習会(中山間の地域引力創出支援事業活用)
- ・モニターツアーの企画、開催
- ・地元ガイド養成講座の実施(2回)



図2 体験農園モニターツアー

○ 推進方向2 「総合的な鳥獣害対策」

■ 地域ぐるみで取り組むモデル集落の設置

- (1) 指導対象：鳥獣対策モデル集落 3地区
- (2) 活動内容

- ・獣害対策の基本勉強会(3回)
- ・指導者育成研修会 (2回)



図3 追払い研修会

- ・鳥獣被害対策実施隊の設置支援(焼津市)
- ・有害鳥獣減容化処理施設の活用支援(藤枝市)
- ・川根ジビエ商品づくり(川根本町)

具体的な成果

○「大井川流域の地域資源を活かした交流促進」

■常設プログラム数

- ・15→36プログラム

■農家民宿の宿泊者数

- ・延807→延600人(R3見込み)

■農家民宿開業数

- ・9→14軒(R3年12月現在)

■体験モデルコースの造成

- ・0→4コース(島田2、藤枝1、川根1)

■川根本町体験交流者数

- ・―→900人(R3見込み)

表2 体験プログラム例(久野脇地区)

プログラム	定員
干し芋づくり体験	5名
川根茶ワークショップ	10名
あまご掴み体験	5~20名
釜炒りウーロン茶作り	5名
茶品種当てゲーム	20名
縁結びパワースポットめぐり	5名
しいたけ狩り	10名
パワースポットモーニングティー	5名

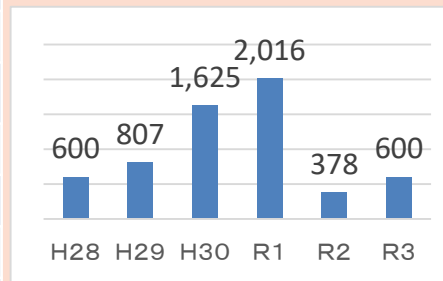


図4 農家民宿・宿泊者数の推移 (R3は見込)

◎成果のポイント

- ・大井川流域が農林水産省の「SAVOR JAPAN」に認定され、地域の食文化、農泊の情報が国内外に情報発信されるようになった。
- ・農泊受入モデル地区(川根本町地名地区)を設定し、10軒の受入家庭の育成を図った。
- ・農家民宿等の開業支援を行い、4年間で新たに5軒が開業し、14軒まで増加した(県内の29%)。
- ・今後は、教育旅行の受入体制を整備し、交流人口の拡大につなげる。

○「総合的な鳥獣害対策」

■モデル集落の設置

- ・3地区(島田市笹間、藤枝市西方、川根本町大沢)

■鳥獣被害

- ・被害金額:55百万円→41百万円(R3見込み)

- ・被害面積:23→13ha

■被害対策実施隊の設置

- ・3市町→3市町(焼津市はR3年中に新規設置)

■獣肉の有効活用

- ・ジビエ新商品開発販売(猪、鹿肉餃子)

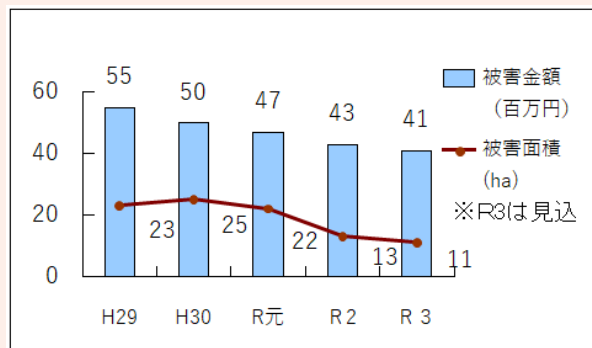


図5 管内の鳥獣被害の推移 (R3は見込)

◎成果のポイント

- ・被害防止モデル集落を設置し、重点的に集落点検、勉強会を開催し、自ら守る意識が醸成された。
- ・国の鳥獣被害防止交付金の活用により、防護柵などが各市町に整備された。
- ・藤枝市において、減容化処理施設がR3年から稼働し、捕獲した有害鳥獣の処理負担の軽減につながった。



図7 減容化処理施設